

# 図書館だより

H27-No.5  
三刀屋高校図書館  
平成27年7月13日

## 今年の夏は「読書三昧」といきましょう！

夏休みまであと2週間。今日から夏休みの長期貸出を始めます。冊数は**無制限**、返却期限は**8月19日(水)**(2学期始業日)

夏休みも部活にお手伝い忙しいかもしれないけれど、普段の生活ではできないことも思い切ることができる時。時間の使い方はあなた次第。

「夏休みに、何をやるの？そこはやっぱり読書でしょ！」

ハラハラドキドキの青春小説やホラー小説もよし、自分の将来を思い浮かべて、知識を増やすもよし。普段は挑戦しにくい長編小説にチャレンジするもよし。夏休みだからこそ読んでほしい本、夏休みに読みたくなる本を用意しています。本選びのご相談、いつでもお待ちしております。by 司書

### \* 新着図書紹介 \* ラベルの番号 書名 著者名 出版社 内容の順

★はリクエスト本 ◆は第一学習社小論文対策おすすめ本

紹介した本は「新着図書コーナー」にあります。

#### 【019 読書 024 書店】

##### ◆019-7 本の読み方

###### スロー・リーディングの実践

平野啓一郎著 PHP 新書

情報が氾濫する時代だからこそ、スロー・リーディングを提唱。夏目漱石「こころ」や三島由紀夫「金閣寺」から自作の「葬送」まで、古今の名作を題材に、本の生きた知識を体得する実践的な手法を紹介。

##### 024-エ 本屋さんの仕事

江口宏志ほか著 平凡社

人気の書店は、どのように誕生し、お客さんの支持を集めているのか。独自のノウハウ、哲学を徹底的に語った「本屋さんの仕事」講座。ビジネスを成功させる秘訣、仕事と人生を楽しむヒントが見つかる。

#### 【1 哲学】

##### ◆104-ウ 哲学する心

梅原猛著 講談学術文庫

独創的思想家として知られる著者が、哲学の枠組にとどまらず、時に社会学、歴史学、文学などへの領域にも立ち入り、洞察に満ちた思索を縦横に展開する。考える喜びや考える楽しみについて熱っぽく語るはじめてのエッセイ集。

##### 【東洋思想】123-モ 孟子

孟子著 内野熊一郎訳著 加藤道理編 明治書院

中国古典の原文の読みどころに、書下し文と解説・背景を加えた、読みやすく、コンパクトなシリーズ。孔子の儒教思想を受け継いで、諸国を遊説し、諸侯に対して仁義に基づく王道政治を説いた孟子の言行録。

#### 【14 心理】

##### ◆141-シ <意識>とは何だろうか

###### 脳の来歴、知覚の錯誤

下条信輔著 講談社現代新書

意識とは何なのか、意識プラス無意識か。他社の心の存在によってはぐくまれる意識は、脳や心とどのようにつながっているのか。「錯誤」を手掛かりに脳・認知科学の最前線から「心の全体像」へ迫る。

##### ◆141-ナ 共通感覚論

中村雄二郎著 岩波新書

古今の知見を縦横に駆使し、人間や芸術に関する多くの重要なコモン・センスの問題にかかわることを明らかにした現代哲学の記念碑的著作。

#### カブト虫情報

オス3匹、メス6匹元気に昆虫ゼリー食べています♡



### 周藤友子先生のブックエッセイ

#### わが家の食育

##### ～「嫌がらせ弁当」から考えたこと～

「なんて奇抜なタイトルなんだろう……」

初めてこの本を見たとき思った。しかし、読み終わってみると、これが本当の「嫌がらせ」ではなく、究極の「愛情」または「食育」をテーマにした本なのだとわかった。

読みながら思い出したのは私の高校時代の弁当である。毎日のおかずの一品は必ず煮物だった。母曰く、「煮物があれば栄養、彩りともに何とかなる」という理由で……。しかし高校生の私にとって、それは「嫌がらせ」以外の何物でもなかった。フタを開けた時の「またか…」というがっかりする気持ち。ナスの煮物の時は最悪である。ナスの色素（アントシアニン）で黒くなった煮汁が、自転車通学でゆられた弁当箱の中でご飯ゾーンに流れ込み、黒く染まったご飯。思い出すだけで暗い気持ちになってしまう。友達からも「煮しめ弁当」というあだ名をつけられ、弁当の時間がちょっと憂鬱だった。

しかしこの「煮しめ弁当」がいかにありがた

いものだったかに気が付いたのは大学に進学して一人暮らしを始めてからである。大学の講義やアルバイトの間に、毎食自分で作るのには本当に大変だった。母も朝の忙しい間に父、姉、私の3人分の弁当を作るのは大変だっただろう。しかも母のすごいところは冷凍食品を全く使わなかったところだ。そのかわり母は「嫌がらせ」のごとく、毎日煮しめを入れ続けた。今思えば、食品添加物や塩分などの少ない、バランスのとれた食事を食べさせたいという親心だったのだと思うが、高校生の私には煮しめより冷凍食品のから揚げのほうがいいのと思ったこともある。

母は「きちんとした食事をさせていれば子どもはぐれない、そういう信念を持って子育てをしてきた」とよく言っている。そういう食に対するこだわりがあった。

父にもあった。父のこだわりは「夕食は必ず家族そろって食べる」というものだ。夕食の時間になっても部屋から出てこない時は必ず呼びに来た。病気で寝ているときでさえも「食べたことにしなさい」といって起こしにやってきた。その時は「あとで食べるからほっといてよ」と思って

#### 【33経済】

##### ◆332-カ 経済の倫理

###### 反経済学からの問い

金子勝著 新書館

グローバルスタンダード、IT革命、石原新税、リストラ、そごう問題…。この1年半ほどの間に起きた具体的な問題について論じ、時代の転換の意味について考え、社会の閉塞の打破を説く。

##### ◆333-イ グローバリゼーションとは何か

###### 液状化する世界を読み解く

伊予谷登士翁著 平凡社

既存の統合規範を破砕し、世界の再編成をせまるグローバリズムの波。国民国家に編成されてきた資本と労働と商品は国境をはじめあらゆる領域を超え、グローバル化されている。その新たな世界経済の編成原理とは何か。

##### ◆334-カ 子どもという価値

###### 少子化時代の女性の心理

柏木恵子著 中公新書

少子化を出産・結婚をめぐる女性の心の問題としてとらえる人口心理学を提唱し、その視点から考える。

##### ◆336-ハ 失敗学のすすめ

畑村洋太郎著 講談社文庫

失敗の定義・種類から正しい失敗の伝え方、生かし方など失敗を総合的にとらえ、「失敗学」を解説。

##### ◆341-ジ 人間回復の経済学

神野直彦著 岩波新書

経済に従属して生きているかのような現在。今こそ、人間に従属する経済システムを作る絶好の機会であり、それが現在の閉塞状況を打破するカギにもなる。社会・政治・経済の三者のあるべき関係を提案する斬新な経済社会論。

#### 【36 社会学】

##### ◆361-イ <聞く力>を鍛える

伊藤進著 講談社現代新書

人間関係の鍵は「聞く能力」が握っていた! 情報ベースの拡大、人との絆、生産性アップ等、聞くことのメリットは大きい。聞くことの重要性、コミュニケーションの基本について述べ、聞く力を身につける方法を説く。



いた。しかし、家庭科の教員という立場になってはじめて、これは父の「食育」だったのだと思うようになった。食べる目的は栄養をとるだけでなく、家族団らんや楽しみの時間でもあるはずだ。一緒に食べることで、少ないながらも会話がうまれる。父は私との少ない会話やその時の表情から気持ちを汲み取ろうとしていたのではないだろうか。

近年「食育」という言葉が大きく取り上げられるようになり、授業でも教えるようになっている。しかし、この本を通して改めて食育は「〇〇すべき」「〇〇はよくない」という型にはまったものではなく、その家庭や親のやり方で子どもに伝えていけばよいのではないかと感じた。それは毎日豪華な食事や手間がかかるキャラ弁でなくてもよい。たくさんの会話をしなくても手作りの温かい食事一品で表せばよいのだと思う。

『今日も嫌がらせ弁当—反抗期ムスメに向けたキャラ弁ママの逆襲』 t t k k (Kaori) 【著】

#### 図書館にあるよ!



##### ◆361-ハ メディアと日本人

###### 変わりゆく日常

橋元良明著 岩波書店

読書離れ、テレビ離れは本当? ネットが若者に与える影響は? 日本人がメディアをどのように受容し、利用しているのかを実証的に検討し、メディア界の構造転換を明らかにする。日米のメディア研究の動向も紹介。

##### ◆361-フ 異文化コミュニケーション・キーワード

古田暁ほか著 有斐閣

異文化コミュニケーションに関する基本的で重要な120のキーワードを、見開き2ページの読みきりスタイルで平明に解説。国際化時代に生きる現代人に必要な概念を正確に把握できる。

明日、返却督促を出します。受け取った人は7/22日までに返却してください。返却されない時は紛失と判断し、終業式の日

に弁償請求を出します。見つからない人は夏休み中に弁償本(同じ本)を用意してください。

図書館には課題研究や小論文対策の本で、特に読んでおいてほしい本を入口近くにコーナーを作っています。学研の「読んでおきたい本」(黄色シール)や第一学習社の小論文対策推薦リスト(白色シール)の本を集めてあります。一冊でも多く読んで、知識の補充をしておきましょう。3年生の面接や受験はもちろん、1年生の地域産業研究、2年生の研修旅行に役に立ちます。自分の進みたい分野や興味のある分野の本を夏休みに何冊読めるか挑戦してみませんか! 分野別の学研、第一学習社のリストと読書記録を用意しますので、読んだ本は記録を書いてみよう。継続は力なり、積み重ねた努力がチカラになる! ｽ

【367 青少年問題 368 社会病理】  
**367-イ みんなのチャンス**  
**ぼくと路上の4億人の子もたち**  
 石井光太著 少年写真新聞社  
 貧しい国の子もたちは、どんなふうな毎日を過ごしているんだろう? 「家」「働く」「仲間」などのテーマごとに、作家・石井光太が写した、路上に生きる子どもたちの実態を紹介する写真絵本。

◆**367-ワ 老いの空白**  
 鷲田清一著 弘文堂  
 人類は超高齢化社会という、その歴史に参照すべきモデルのない時代を迎えている。形や文化がみえない、空白の「老い」という問題について考える試み。見えない「成熟」のかたち、「老い」の破壊性など。

◆**368-ウ 反貧困の学校**  
**貧困をどう伝えるか、どう学ぶか**  
 宇都宮健児ほか 編 明石書店  
 先進国中ワースト2の貧困率。3人に1人は非正規労働者。女性労働者の3分の2は年収300万円以下。日本の貧困、これでいいのか?

【37 教育】  
 ◆**375-イ 国語教科書の中の「日本」**石原千秋著 ちくま新書  
 グローバル化と伝統の間で揺れる国語教育は、日本という感性を押し付ける教育装置になっていないか? 「古き良き日本」ばかりが描かれる小中学校の教科書を詳細に分析し、その言葉の裏に隠されたメッセージを読み解く。

◆**376-オ 幼児期**  
**子どもは世界をどうつかむか**  
 岡本夏木著 岩波新書  
 発達心理学の立場から、幼児の「しつけ」「遊び」「表現」「ことば」の4相を組み上げ、子どもが自分を取り巻く世界に踏み出すための発達の基礎は幼児期にこそ培われるべきことを提言。

◆**377-オ 学ばず教えずの大学はもういない**  
 大宮知信著 草思社  
 崩壊寸前の日本の大学。その再生は可能か。それとも自滅するしかないのか。東大、早稲田、慶応を中心に、自己改革の意欲と能力を欠いた大学の惨憺たる実態を描く。

【404 エッセイ 46 生物 49 医学】  
 ◆**404-イ 科学と人間の不協和音**  
 池内了著 角川書店  
 なぜ科学が人間を傷つけてしまうのか。「市民と科学者の間の視線の交換」をキーワードに、それぞれの思惑のすれ、迎合、反発などを歴史的に現代の科学に即して論じる。

◆**404-マ メディア・バイアス**  
**あやしい健康情報とニセ科学**  
 松永和紀著 光文社  
 世間に氾濫するトンデモ科学報道。センセーショナルリズム、記者の思い込み、捏造、それを利用する企業や市民団体…。メディア・バイアスの構造を解き明かし、科学情報の真偽の見極め方、リスク評価の視点を解説する。

◆**467-サ ヒトゲノムの光と影**  
**五人の研究者との対話**  
 佐伯洋子著 裳華房  
 2000年6月に解説終了宣言されたヒトゲノムの次の課題は、間違いなく医療、健康への適用、応用である。世界で、そして日本で、どのような方向がめざされているか、研究者の立場ではなく市民の立場から鋭く迫る。

★**493-ク 新生児集中治療室 NICU** C・グリーンソン著 田中芳文訳 医歯薬出版  
 NICU(新生児集中治療室)を舞台にした、新生児たちの生と死のドラマ。17人の赤ちゃんとその家族、そしてそれを支える医療スタッフの姿を克明に描き出したノンフィクションストーリー。

【5 エ学 519 環境問題】  
 ◆**501-ト 地域の力で自然エネルギー!** 鳥越皓之ほか著 岩波ブックレット  
 海に囲まれ、緑に恵まれた日本は、実は自然エネルギー資源の宝庫。バイオマスから波力・潮力、小水力、地熱エネルギーまで、日本に特徴的な自然エネルギーの現状とさまざまな取り組みを紹介。

◆**519-ナ 環境リスク学**  
**不安の海の羅針盤**  
 中西準子著 日本評論社  
 ダイオキシン、環境ホルモン等の環境問題に真摯に取り組んできた著者の航跡をたどる講義録、環境リスク学の分野を切り開き、リスク評価の先をも見渡す論考等、中西リスク論の全てを結実。環境にとって大切なものを改めて問う。

◆**519-ヒ 環境原論**  
**地球にやさしいを問う**  
 平野敏右著 丸善  
 太陽光発電、電気自動車、ゼロエミッション…これらの技術・製品は本当に環境にやさしいのだろうか。環境問題解決のための努力が逆の結果を生み出すことのないように、環境問題を原点に立ち返って考える入門書。

**519-ワ 自然再生**  
**持続可能な生態系のために**  
 鷲谷いづみ著 中公新書  
 環境を改変する力をもつ唯一の生物であるヒトは、今こそ、持続可能な生態系を再生させなければならない。自然再生の思想と方法をやさしく解説。

【726 漫画 絵本 778 映画】  
**726-ア-13 銀の匙 VOLUME13**  
 荒川弘著 小学館  
 季節は巡り、ついに八軒たちが最終学年となりました。高校生活最後の団体戦に挑むエソノー馬術部は、3年間の集大成を見せつけることができるのか!? そして八軒は、御

影は、夢に向かって前進することができるのか!?

**726-シ おおきな木**  
 シェル・シルヴァスタイン作 村上春樹訳 あすなろ書房  
 いつでもそこにあるりんごの木。成長し変わっていく少年。それでも木は、少年に惜しみなく愛を与え続けた。世界で読み継がれているロングセラー絵本を村上春樹が新訳。

**778-タ ジブリの世界を創る**  
 種田陽平著 角川 ONE テーマ新書実写の映画美術に携わり、「思い出のマーニー」で初めてアニメーション映画の美術監督に挑戦した著者が、実際に肌で感じたスタジオジブリのエッセンスと、一般にはなじみが薄い映画美術の仕事について伝える。

【言葉】◆**810-オ 日本語の教室**  
 大野晋著 岩波新書  
 「日本語はどこから来たのか、どのように変わってきたのか」「日本語は、日本文化はこれからどうなるのか、どうすべきか。」など、これまでの研究の成果をつぎ込んで「日本語」について語る。

【913 日本の小説】  
**913-ア 敗者たちの季節**  
 あさのあつこ著 KADOKAWA  
 甲子園初出場をかけた地区予選決勝で敗れ、海藤高校野球部の夏は終わった。だがそこへ、優勝校・東祥学園が出場を辞退したという報せが届き…。

**913-ア-1さいとう市立さいとう高校野球部 1** あさのあつこ著 講談社  
 中学で野球部に所属していた山田勇作は、訳あって高校では帰宅部で自由を満喫。ところが野球部に勧誘され、試し入部をしてみると、独創的な練習方法に驚きの連続で…。

★**913-イ ハーモニー**  
 伊藤計劃著 ハヤカワ文庫  
 優しさと倫理が支配するユートピアで、3人の少女は死を選択した。13年後、死ねなかった少女トアンが、人類の最終局面で目撃したものは?

**913-イ 死神うどんカフェ 1号店 3杯目、4杯目**  
 石川宏千花著 講談社  
 2年前、命を危険にさらしてまで助けた男の子、北村栄が自殺未遂をくり返していることを知った希子と亜吉良。ふたりは栄に会いに行くことにするが…。訳あり店員たちと希子の青春グラフィティ第3、4弾。

**913-オ てのひらの父**  
 大沼紀子著 ポプラ文庫  
 年ごろの三人の女性が暮らす下宿にある日、真面目だけが取り柄の臨時管理人が現れ、それぞれの「足りない何か」が浮き彫りに。“家族の森”で迷子になっているすべての娘たちに贈る「父と娘」の物語。

◆**913-ク 食育のススメ**  
 黒岩比佐子著 文春新書  
 明治の大ベストセラー小説「食道楽」で紹介された美食、食餌療法、食育、おもてなし等の数々。食育基本法がつくられる百年も前から「食育」を提唱し、推進した村井弦斎の食の極意を学ぶ。

★**913-コ 妖怪アパートの幽雅な日常 4~10** 香月日輪著 講談社  
 高校進学と同時に入居したアパートは妖怪の巣窟、妖怪アパートだった。次々と目の当たりにする非日常を前に常識は粉砕して…。

**913-ト-8 ログ・ホライズン 8**  
 橙乃ままれ著 KADOKAWA  
 マジックバッグを入手するクエストのため、トウヤら年少組はアキバを離れて、はじめての5人旅に出発。西を目指して進む彼らが出会ったのは…。

★**913-ニ 掟上今日子の推薦文**  
 西尾維新著 講談社  
 2億円の絵が200万円に! 美術品を巡る事件は、画家の卵、巨匠を巻き込み、さらに凶悪化し…。記憶を持たない名探偵・掟上今日子が事件の謎に挑む、タイムリミットミステリー。忘却探偵シリーズ第2弾。

**913-ニ 悲録伝**  
 西尾維新著 講談社  
 魔法少女同士の死闘をあらゆる手段で生き延びた13歳の英雄・空々空と、7人の女性。思想も、能力も、思惑も、すべてが異なる8人は、四国からの脱出と「究極魔法」奪取を共に目指すことを決めるが…。波乱の四国編、完結。

**913-ヤ 君がいる時はいつも雨**  
 山田悠介著 文芸社文庫  
 孝広は幼いころに事故で両親を亡くし、叔父夫婦のもとに身を寄せている。夏休みが始まり、寂しさを紛らわせようと大好きな野球に打ち込むのだが、そこへ謎の男の子が現れた。必ず雨とともに姿を見せる彼はいったい何者なのか?

**913-ヤ 天使が怪獣になる前に**  
 山田悠介著 文芸社文庫  
 ふたたび現実世界にやってきた孝平は、街中でたたずむ男の子と出会う。とある母子の様子を眺め続ける男の子は決して名前を言わず、孝平は仕方なく「ナナシ」と名付け…。哀しみを背負った「ナナシ」は幸せになれるのか。

◆**916-タ 寡黙なる巨人**  
 多田富雄著 集英社  
 2010年4月に惜しまれながら逝去した世界的免疫学者の多田富雄氏は2001年に脳梗塞に倒れ、半身不随となり、声を失いながらも懸命のリハビリで文筆活動に復帰した。その壮絶な闘病記とエッセイ集。

